



公営墓地

須藤 功

問 昨年9月議会の質問から「墓地の数を今後調べることがあるのではないか」との問いに対し、「少し検討したい」と答弁があった。どのように検討したのか。

市民経済部長 市内では最低でも150程度の空き区画があるという確認ができています。

問 「西地区は、新興住宅が増え核家族が増えている。団塊の世代が、確実にお墓を求め方が増える状況にある」との問いに「少しいろいろ研究したい」と答弁があった。どのように研究したのか。

市民経済部長 空き区画が相当あるということ。需要と供給の話で市として今すぐに新たな墓地の供給に取り組む必要はないと認識しています。

問 大切な家族が亡くなった際に、岩沼のお墓ではなく、市外にお墓を求める状況が実際聞こえている。近くにお墓があればいいと思う。検討しないのか。

市長 お墓まで必要ないという多くの方がいますので、それらを踏まえ対処していきたいと思いま

す。

問 岩沼に公営墓地を造って、弊害になることはあるのか。

市民経済部長 一般的に弊害はないと考えます。

問 市民墓地があったらいいと思う。市民のために造ってもいいのではないか。

市長 現実的に実行する場合は財源が必要です。土地を購入して道路やトイレを造ったり、あるいは管理棟も造り、継続して維持していく必要があります。それらを総合的に判断した場合、やはり財源も考える必要があります。

市営・市民墓地造っては

問 税金を掛けて市営墓地、市民墓地を造ってもいいと思うが、そのような考えは全くないということか。

市長 市民にそのようなニーズが多ければ対応していかなければならぬということを、検討させています。



高齡者支援

長田 忠広

問 介護支援ボランティア制度は、65歳以上の方が介護ボランティアをした場合に、活動の実績に応じたポイントを交付。このポイントは介護保険料や介護サービスの利用料に充てられる。一部では商品券に交換できるところもある。

この制度の目的には、高齢者がボランティア活動を通じて社会参加、地域貢献ができ、自身の健康にもつながるといふ側面がある。

このことについて、これまで介護支援ボランティア活動の導入を提案した。そこで、検討状況を伺う。

総務部参事 6月に高齢者の生活支援体制の整備を図る協議会を設置して、介護支援ボランティア制度について検討しています。

現在は、地域における高齢者の日常生活上の支援体制の充実や強化を図るために、生活支援コーディネーターを中心にボランティアの仕組みや、地域の実情に応じた調査、検討をしている状況です。

困りごと事業導入しては

問 高齢者困りごと事業とは、ひとり暮らし高齢者や高齢者だけの世帯では、電球の交換や重い物の移動など日常生活でちょっとしたことができない時にお手伝いをする事業です。

このことについて、これまで高齢者困りごと事業の導入を提案した。そこで、検討状況を伺う。

総務部参事 いろいろな方々の協力を得て行うものなので、現段階では非常に難しい状況になっています。

これから超高齢社会に突入していきますので、岩沼市としても高齢者の困りごとに対して、いろいろな方々の協力を得ながら行っていくことを考えたいと思います。

◎その他の一般質問

- ・防災対策
- ・医療費の支払い方法